

事務事業評価調査

担当課	総務部	八坂支所	課	総務	係	事務事業No.	121115	
事務事業名	八坂地域振興事業							
会計	一般会計	款	2	項	1	目	11	
総合計画	まちづくりのテーマ	第5節 市民の参画と協働でつくるまち				前期計画掲載頁	93	頁
	施策目標	市民の参画・協働と市民の視点に立った市政の推進						
	施策項目	過疎地域での地域づくりの推進						
個別計画	大町市過疎地域自立促進計画						16~18	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> 住民の自主的、主体的な地域づくり活動への支援 八坂地区で生活する住民及び、八坂地区に活動拠点のある団体 			<ul style="list-style-type: none"> 定住人口が減少し、少子高齢化が急速に進むなか、住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域活力の持続性を高め、活気と魅力あふれる地域づくりを推進する。 				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり委員会、地域づくり協議会を開催し、地域内の振興策や諸問題への対応を検討する。 地域振興バスを運行し、ふれあいバス路線区域外の交通弱者の足の確保を図る。また、診療所の送迎診療、たけのこ保育園の通園バスを運行し、施設利用者の利便性の向上と交通弱者の足の確保を図る。 地域づくり協議会、八坂音頭保存会等へ補助金を交付し、地域振興と特色ある地域活動団体の支援を行う。 							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		14,441,892 円		11,857,556 円		12,896,212 円		
	財源内訳	特定財源	円		6,000,000 円		1,000,000 円		
一般財源		14,441,892 円		5,857,556 円		11,896,212 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	地域振興バスの運行	日	292	290	293	293	100.0%	243
	②	送迎診療の実施	日	70	70	70	70	100.0%	70
③	道路愛護事業延長	km	75	75	75	-		75	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	地域振興バス利用者数	人	1,762	1,556	1,703	1,500	113.5%	1,500
	②	送迎診療の利用者数	人	464	476	468	480	97.5%	350
	③	道路愛護事業参加者	人	1,206	1,152	1,151	-		1,150
2. 数値で表せない効果（指標）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	3	3	3	2	3		継続	17 18
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり協議会の活動を支援することにより、行政に依存することなく、自主的・主体的に地域の課題解決と地域振興活動を推進することができている。 地域振興バスを運行することにより、高齢者等の交通弱者の足の確保が図られ、住み慣れた地域で安心して暮らすことができている。 送迎診療バス、保育園送迎バスの運行により、施設利用者の利便性の向上と交通弱者の足の確保が図られている。 									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>少子高齢化が進むなかで、限界集落と言われる地域コミュニティーが成り立たない地区が出始めている。このため、自治会役員などの担い手確保に困難な状況があり、自治会組織の見直しや再編などが課題となっている。今まで地域で実施してきた道路の草刈り等の活動が高齢化によりできない地区も出始めている。また、高齢のため運転免許証を自主返納したことにより移動手段が無くなり、日常生活に支障が出ている世帯もあるため、対策が必要である。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>自治振興会長会議を中心に、各集落の現状と今後の見通し等を取りまとめ、自治会組織のスリム化や地区組織の再編について検討を進めるとともに、今まで集落ごとに実施していた活動について、ボランティア団体とも協力して周辺地域全体でカバーしながら活動を行える体制づくりを検討する。また、地域振興支援員による、公共交通空白地帯での高齢者の生活状況の実態調査及び、バス利用に対する現況調査を実施し、地域づくり委員会において、現在運行している地域振興バスを有効活用できる運行計画を検討し、交通弱者の足の確保につなげる。</p>

事務事業評価調書

担当課	総務部	八坂支所	課	総務・産業建設	係	事務事業No.	121118
事務事業名	八坂定住促進事業						
会計	一般会計		款	2	項	1	目 11
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画掲載頁	60
	施策目標	移住・定住促進策等の充実強化					
	施策項目	過疎地域における移住・定住促進					
個別計画	大田市過疎地域自立促進計画						頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	定住人口が減少し、少子高齢化が急激に進むなか、拠点集落に1・Uターン者等の定住を促進させるための定住促進住宅の整備を行う。また、地域に点在する空き家を有効活用し、移住希望者に紹介するとともに、入居した世帯に奨励金を交付する。			地域に密着した定住促進対策を進め、地域活力の維持と継続を図る。			
主な業務内容	・平成26年度 住宅建設3棟（切久保2・矢下1）・平成27年度 住宅建設建設2棟（野平）・平成28年度 住宅建設2棟（野平）・平成29年度 住宅建設2棟（矢下）・令和元年度 宅地造成（栢沢）＜令和2年度 住宅建設2棟（栢沢）・予定＞ ・移住者との交流会、過疎地域定住促進奨励金・過疎地域住宅新築資金等利子補給金・過疎地域就職促進奨励金等の交付						

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		41,239,064 円		0 円		11,301,812 円		
	財源内訳	特定財源	30,700,000 円		0 円		8,000,000 円		
一般財源		10,539,064 円		0 円		3,301,812 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	定住促進住宅	戸	25	25	25	25	100.0%	27
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	入居世帯増	世帯	1	0	0	1	0.0%	1
	②	入居者増数	人	4	0	0	2	0.0%	2
	③								
2. 数値で表せない効果		（指標①）移住者の自治会活動などへの参加により、集落機能の維持や活性化につながる。							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である				
点数	3	3	3	3	2	3					
評価理由		・未入居者がある既存住宅については、引き続き定住促進係等との連携による入居者確保に努めている。 ・入居者募集については、周知期間の確保として、宅地造成が出来た段階で首都圏でのイベントに参加し、リーフレットの配布や八坂地区のPR等を行い、早期からの広報を行った。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	
定住促進住宅は、定住人口の増加と集落機能の強化に一定の効果は見られるが、今後の住宅建設については、既存の住宅の入居状況をみながら、地域の受け入れ要望のほか、移住者の感想、移住希望者のニーズや動向を把握し、建設時期等の検討を行う必要があると考えられる。また、定住促進住宅の入居者と懇談を行い、一定期間以上の入居者への住宅譲渡の説明を行うことにより集落内への定着を進める。空き家の持ち主の理解が得られない物件が多数あるため、自治会と協力しながら粘り強く交渉を進める必要がある。	
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	
今後の定住促進住宅のあり方として、八坂地域づくり協議会・自治振興会と連携して、地域の受け入れ要望等による新たな住宅を建設するだけでなく、空き家対策として、空き家のリフォームによる定住促進住宅としての活用についての検討も進めていく。	

事務事業評価調書

担当課	総務部	八坂支所	課	産業建設	係	事務事業No.	121119	
事務事業名	明日香荘管理運営費							
会計	一般会計		款	2	項	1	目 11	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画登載頁	56	
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進						
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進						
個別計画							頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> 市民の健康増進に資するための保養施設及び観光施設として、地域間交流の促進、観光の振興を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 地元の郷土食であるそば・おやきの製造、販売をとおした郷土文化の維持を図り、地域の活性化に結び付けたい。 地域の拠り所として、地域住民に愛される施設管理を推進する。 				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設及び設備等の修繕については、公共施設総合管理計画に基づき、指定管理者と協議をしながら計画的に行うとともに、明日香荘の適正な管理運営を行う。 							

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度			
	総事業費（決算額）	18,472,424 円		16,009,696 円		15,003,280 円			
	財源内訳	特定財源							
一般財源		18,472,424 円		16,009,696 円		15,003,280 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	イベント等開催	回	8	8	11	8	137.5%	10
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	利用者数	人	28,351	28,816	28,779	30,000	95.9%	30,000
	②								
2. 数値で表せない効果		（指標①）指定管理者と協議し、施設及び設備等の改修を行い、施設利用者の利便性を図るとともに、誘客に努めている。							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である					
点数	3	3	2	3	2	3						
評価理由	施設は築17年以上を経過しており、設備や備品の経年劣化が進んでいるが、適切な維持管理による設備の長寿命化と、緊急性の高いものから計画的な整備改修を行うため指定管理者との協議を行っている。市民福祉の増進を図るための施設として、地元向けのイベント開催や、観光客誘致対策としての積極的なホームページ活用など利用者のサービス向上に努めている。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
施設の経年劣化が進み、突発的な緊急修繕が多く対応に苦慮している。また今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊や宴会のキャンセルが相次ぎ施設運営に大きな影響があり、感染拡大防止のために、3月1日から営業の縮小、3月23日からは臨時休館を余儀なくされた。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> 定期的な施設巡回や指定管理者との連携により、計画的な施設維持管理を行う。 施設の設置目的に基づいた健全な施設運営を図るとともに、市民や地域住民の拠り所として、利用者に愛される施設とするために、明日香荘連絡協議会を通じて地元住民からの意見徴収等を行う。 新型コロナウイルス感染症の影響により休館している施設の再開に向けて、指定管理者と対応策の協議を行う。

事務事業評価調書

担当課	総務部	八坂支所	課	産業建設	係	事務事業No.	171310	
事務事業名	八坂観光施設管理費							
会計	一般会計	款	7	項	1	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画登載頁	56	頁
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進						
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進						
個別計画							頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> 市民の健康増進及び、地域以外の多数の方が利用する観光事業の振興を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 地域間交流や観光の振興を通じて、地域の活性化を図る。 体験事業を通して、そば打ちや灰焼きおやき等地区固有の伝統文化の継承を行う。 				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 八坂地区の観光施設は指定管理施設をはじめ、公衆トイレ等の施設があり、施設や設備の経年劣化が進んでいるが、公共施設等総合管理計画に基づき、計画的な整備改修を行い機能維持を図り、利用者が安全かつ快適に利用できるよう管理運営を行う。 鷹狩山展望施設、ふるさと体験館、さざなみについては、指定管理者制度を導入し、民間活力による効率的な運営を行う。 							

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度				
	総事業費（決算額）	7,829,515 円	6,493,750 円	5,694,066 円				
	財源内訳	特定財源	円	円	円			
		一般財源	7,829,515 円	6,493,750 円	5,694,066 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	① 展望施設イベント開催	回	2	3	3	7	42.9%	8
	② 体験館イベント開催	回	2	2	2	2	100.0%	3
③ さざなみイベント開催	回	1	2	2	4	50.0%	4	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	① 展望施設利用者数	人	12,716	5,877	5,493	6,000	91.6%	6,000
	② 体験館利用者数	人	6,404	4,545	3,650	5,000	73.0%	5,000
	③ さざなみ利用者数	人	28,677	29,981	25,627	30,000	85.4%	30,000
2. 数値で表せない効果		（指標①）指定管理者や施設管理受託者と協議し、施設及び設備等の改修を行い、施設利用者の利便性を図るとともに、誘客に努めた。						

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である					
点数	3	3	2	3	2	3						
評価理由	施設利用者の安全性などの重要性和緊急性を考慮して、施設修繕を行い利用者の利便性を図っている。指定管理施設ではイベントの開催による集客の他、地元食材の活用による地域活性化の効果があがる。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>各施設経年劣化が進み、突発的な緊急修繕が多く対応に苦慮している。八坂地区内に設置目的が類似した指定管理施設があることから、利活用の実態や地元地区の意見等を踏まえて、今後の施設のあり方についての検討が必要であると考え。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>各施設、定期的な施設巡回や指定管理者及び施設管理受託者との連携を図りながら、計画的な維持管理を行う。施設運営や活用方法について地元住民と意見交換を行い、公共施設として適正な施設管理を行う。新型コロナウイルス感染症の影響により利用が休止されている施設の再開に向けて、指定管理者と対応策などの協議を行う。</p>